毒され少女の異世界物語

くろーばー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
毒され少女の異世界物語

【Ｎコード】
Ｎ６０４９Ｚ

【作者名】
くろーばー

【あらすじ】
ある日、目覚めるとそこは緑豊かで見たことのない生物が住まう異世界でした。「遂に来た！私の時代？！剣と魔法の異世界ファンタジー！？逆ハーに美少年や美少女のポロリもあるよ？の世界！？」
妄想爆走少女のお話。ハーレムハーレム五月蝿くて、下ネタＢＬなんでもござれ。浮かれる毒され少女の甘かったり甘くなかったり真面目だったりお馬鹿だったりで痛い異世界物語が誰に望まれるでもなく始まったのだった。

ＢＬ要素はありません。

毒され少女と現状把握

ある日、目覚めるとそこは緑豊かで見たことのない生物が住まう異世界でした。

そこは天井は落ちて瓦礫の山が出来ている古びた遺跡？神殿のような場所。

目の前に広がるのは東京ドームが何個設置できるのかと考えてしまうくらいに、だだっ広い草原。神殿の裏手には広大な森、時折小鳥？がさえずりなんとも癒される空間だ。超マイナスイオン発生してそう。

先ほどまで横たわっていた身体の下にはなんとなく、嘘です……かなり歪で不恰好な魔方陣。

私は寝るときに着ていたお気に入りのふかふかマシュマロ素材パジャマをきて抱き枕には少々堅い袋を抱え、呆然とする。

これは…

慌てて回りを見渡すと明るさから朝から昼の時間であろうというのに青に少しばかり赤や緑が入った不思議な色の広い空には薄く月が見えるが月は３つある。

そこをどう考えても地球にはいない西洋のドラゴンに近い形状の生き物が悠然と飛んでいく。

大事なことをさらりと考えたのでもう一度。明らかに地球ではなさそうで、私は１７年という長くも無く短くも無い人生において初めて開いた口が塞がらないという状態に陥っている。うん。呆れて

って訳じゃないんだけどね。

ポカンと開いた口を閉じ、ごくりと喉を鳴らし立ち上がるとガッツポーズと共に再び口を開いた。

「やばい、来た、来た！！遂に来た！私の時代？！異世界ファンタジー！？逆ハーに美少年や美少女のポロリもあるよ？の世界！？」

失恋するわ親の会社が不渡り出して両親離婚するわと嫌なことだらけで最近めっきり現実逃避癖の付いた私は寝る前に読んでいた小説や妄想の世界を夢で再現することが多々あるので今回もその延長なんだろうね。

いつもは小説の主人公に自分を置き換えてストーリーをなぞる程度だけど今回のは明らかに違う。私の読んだことのないお話の世界。しかもなんか、やたらと感触がリアル。

……現実逃避能力れべるあっぷ？

「異世界ってことは剣と魔法、妖精や精霊がいて魔物や魔王に困ってたり？混沌とした世界に光を入れるために異世界から勇者や賢者を召喚しようっていう展開？いや、私にそんな大それたことは出来そうに無いから花嫁召喚だったりしてーー！夢なら何でもありだもんね。きゃーーー！！」

赤く染まる頬を手で覆いゴロゴロと床を転がりそうな勢いで妄想に耽る。

それにしては召喚した魔術師もいなければ私を出迎える者の姿も無いけど。

「我が夢ながら段取り悪いなぁ、や、私の夢だから段取り悪いのか」

心持ち落ち込みつつ目線を下げると気付く。手に持っているのは

寝落ちする前まで読んでいたラノベ。

「おぉーー！本まで持ってるなんて！夢なのに暇つぶしまで出来るなんて最っ高」

お迎えが来るまでに読んでおこう。

ペラリとページを捲ればまさに読んでいた本の続き。

黙々と読み進め３０分ほどで読破。まさに夢。素晴らしい。最近内容がちょっとダレていて積んであった本なのに私の理想通りのエンディングでした。

余韻に浸るのもそこそこに一つため息を吐きつつ気持ちを切り替える。

「まぁ、もしかしたら忙しくて迎えに来れないような状態なのかもしれないし、私は私で現状把握に努めますか。うん……夢だし。目が覚めるまで色々と遊んでみようかね」

ポンポンと服についた汚れを落とし立ち上がり抱き枕には少々硬く少女の身体ほどの大きさの袋から少女が履くには少々不似合いなごつい安全靴と靴下を取り出し身につける。

「備えあればなんとやら。家の中なら妄想も許されるべきだと思ってたけど異世界トリップ（と、天災）に備えて準備していたこれが役に立つなんてね！私ってば偉い！」

幾分ハイなテンションでニコニコと袋の中身を広げ一つ一つ確認していく。

「とりあえず水と食料は3食たっぷり食べても4日分はあるし小鍋

に着替えと細々とした雑貨にいらないことを祈るけど避妊具もとりあえずは問題なし。」

異世界召喚と震災の恐怖の一つは暴漢だもんね。昔読んだ某少女マンガで本の中の異世界に飛ばされた子が暴漢に襲われそうになっていたのはなかなかトラウマ物だった。初めてがレイプってこと自体遠慮したいけどやられるだけなら殺されるよりマシなはずだ。多分。

ゴムなんか付けてくれないだろうからアフターピルの準備もばっちり。病気は防げないけどねー。と、いらん心配をしつつ中身の確認を続ける。

「サバイバルナイフと万能ハサミと手回し懐中電灯（防犯ブザー付）でしょ。薬や消毒液を始めとした救急セットに紙とペン、ライターと砥石、裁縫道具にロープ、アルミシートに殺虫剤、愛読書のサバイバル本もあるしその他細々も大丈夫、うん！何かに襲われたりしなければ1週間は余裕で生きていけるでしょう」

寝袋を加工したバッグに荷物を詰めなおしていつでも手に取れるようにサバイバルナイフを装備し行動開始だ！

「まずは安全な場所と水の確保ね。さっきのドラゴンもどきは人間を襲うと考えて上からも下からも身を隠せる場所がいいけど、この神殿の中って安全かな？」

一応サバイバルナイフを構え、5分もあれば全てを把握出来そうな広さの神殿を見て回ると屋根も壁も柱もいたるところが崩れ落ちているけど辛うじて雨風を防げそうな小部屋はある。

定番ということで地下隠し部屋が無いか床の石を叩き探し回った

が見つけられなかった。

「夢とはいえ現実はそう甘くないかぁー。仕方ない、隠れる場所が全く無い訳じゃないからひとまずここを生活の基盤にしようかな。」

神殿を見回った際、数日以内に人が出入りした形跡は見つけられたのできっと私を召喚した人間だろう。（夢のくせにリアルだ。）

そうでない場合も有り得るがここは楽観的に考えよう。

数日以内に訪れたのならば再び神殿を訪れることもあるだろう。それを待てばいい。もし違ったとしても何かしらの情報を得らるチャンスだ

そこではたと気付く

「言葉……通じるのかな……」

暖かな陽気の中に一陣の冷たい風が吹き抜けていった。気がする。

毒され少女と夢の終わり

所詮は夢だし異世界召喚だし、大抵はご都合主義でしょう！ご都合主義万歳！

例え言葉が通じなくても言葉の壁なんて最悪ボディーランゲージで何とかなるって己の心を無理矢理に納得させて天井の一部が崩れた神殿の一室にひっそりと寝床をかまえ夜を迎えることにした。

神殿の周囲には明るいうちに神殿の裏手の森で大量に拾い集めた乾燥して折れやすい小枝や木の葉を出来るだけ隙間なく撒き散らしておいた。これで何かが近づいたら音がするはず。せっせと撒き散らす姿を人に観察されてたら超絶マヌケだけど気にしない！

小枝を拾いがてら森の浅いところを探索した結果、小動物はいたけど大型の動物には遭遇しなかったし如何にも大型っぽい動物の糞も落ちてはいなかった。けど、傷を負った動物の骨は落ちてた。もしこれが肉食獣によるものだった場合、私も危険かもしれないなぁ。

一応いつでも逃げられるように出来るだけ荷物をまとめ神殿からの退路も数箇所確保し服も着替えた。

今の格好は動きやすさを第一にジーンズにTシャツとマシュマロパジャマをカーデ代わりという変な格好でベルトにはサバイバルナイフ。攻撃用に手ごろなサイズの石や木の棒を手元に置いて万が一の事態に備えておく。

イケメンよ！来るならちゃんとした格好に着替えてから来て下さい！外見は悪くないと自負しているけど流石にこの格好は自分でも許されないと思います。

＊＊＊

「相手がドラゴンだったら石と小ぶりなナイフじゃ戦いようが無いけどそこらの動物相手なら何もないよりはマシよねー」

行儀悪いけど片手で小石を玩び、もう片手でビニールからハンカチに包みなおしたパンを持ち、もふもふと齧りながら満点の星空を見上げると地球では絶対にお目にかかれない美しい夜空が広がっている。

「月が3つって摩訶不思議で幻想的――――――色は信号みたいだけど」

はふっと息を吐き、赤、青、黄とそれぞれにごく淡く光り輝く3つの月をうっとりと眺める。ここに格好いい男の子がいたらどんなに幸せなことか……

「王子様みたいに格好いい人と会えたらいいなぁー、背は185センチくらいで程よく筋肉のついた引き締まった身体に少し低めで柔らかく響く声。顔は格好いいのは勿論だけど格好良すぎても困るから……」

出来るだけ外敵に悟られないようにしなくてはと思うけど異世界に一人ぼっちという寂しさから独り言はやめられない。寂しいと結構独り言って出るのねー。これじゃ最近とみに独り言が増えてきたお母さんのこと笑えないな。

と、突然、神殿の外から遠吠えが聞こえてきた。

背筋が凍り冷や汗が流れる。心臓が跳ね上がり騒ぐ。

もし外にいる何かが耳のいい獣なら自分の心臓の音が聞こえてしまいそうなほどに。

必死に外の音に集中するけど耳に響く心臓の鼓動が五月蝿すぎてよく聞こえない。
とにかく直ぐに動けるように、パンをポケットに突っ込み音のした方に注意を向け右手に石を握りしめ身を起こし崩れた壁の隙間からそっと様子を伺う。

ここは月が多いせいか夜でもほんのりと明るくて姿形が判断できる程度だけど周囲を広く見渡すのに困らない。
ビバ異世界の月！ハッキリと見えるわけではないけど夜目の利かない私にとって真っ暗な闇に覆われるよりはずっとマシだ。

目を凝らして暗闇を睨み付けるとそこに見えたのは少し小さめの狼か野犬のような容貌のなにか。いや、狼なんて見たことないけどね！シベリアンハスキーと比べてるけどね！
一歩ずつゆっくりと着実にこっちへ向かってきてる。鼻も耳も良さそうだし絶対見つかってる気がする。

狼もどきとは５０ｍあるかどうかの距離。今はゆっくりと歩いているけど走り出したらあっという間に詰められてしまうし狼？って集団で狩りをするんじゃなかったっけ？
どうしよう、どうしよう、母の実家で飼っていた躾のされなかった可哀想で我が儘な凶暴犬と同じなら一匹なら勝てるかもしれない。けど集団なら絶対に勝てない。
荷物から取り出したバスタオルを腕に我武者羅にグルグルと巻きつけながら思考を巡らせる。何で私の頭はこんなに鈍いんだ！命の危機だ働け！考えて！

焦るばかりで一向に考えの纏まらない頭にイライラしながらタオルの周りにサバイバル本を固定する。

これからどうしよう。狼もどきはもう１０ｍもない位置まで迫ってきている。

パキッと小枝の折れる音が響く、撒き散らした小枝を割りながら進む狼もどき

混乱した頭で閃いたのは小石を遠くに投げること。その結果がどうなるかなんてわかんない。思考が追いつく前に身体が勝手に動いて投げていた。全力で。

森の方に投げ入れられた石は木に当たり乾いた音を響かせる。狼もどきはその音を追って駆け出していった。

案の定、目視できていた一匹の他にも仲間がいたみたいで数匹が駆け出していったのが分かった。一先ず危機は脱した――なんて思いたいけど無理！臭いでわかるだろ！だって獣だし。

半泣きになりながら出鱈目な方向に何度か全力で小石を投げ狼もどきが完全にこちらから気を逸らしてくれるのを只管に祈る。

結局、その日は興奮と恐怖で一睡も出来ないまま朝を迎えた――

――――

なんてね。然うは問屋が卸さないってね！誰か、たーすーけーてー！

私の目の前にいるのは水牛サイズの羊（みたいな生き物）でもぶッとい牙も生えてるしクワガタみたいに前を向いた攻撃する気満々のゴッツイ角も生えてる。

角と身体の所々が血に塗れて赤黒く変色しててその血はついさっ

きの狼もどきの血なんです。はい。多分だけどね。９９％くらいの確立だけどね！

何度か石を投げていたら合間に犬っぽい生き物が鳴いたんです。いかにも『なにかにヤられてる最中です』って感じの声で。ヤ？『エロい　ヤ＝犯』じゃないですよ『ヤ＝殺』ですから。

苛められたワンコのようなキャインって鳴き声とかめっちゃ聞こえてました。それから数分もしないうちに辺りは静まり返って、そして私は犯人さんにご対面！現在に至る！え？そりゃ口調も丁寧になりますよ。怖いもん！

折角召喚されたのになんにもせずに死ぬの？殺される！？
いや待て！この展開は命の危険に晒されるヒロイン。そこに颯爽と現れるヒーロー（美形！）
つり橋現象よろしく芽生える恋！燃えあがる愛！そして熱い一夜！あぁっ！いや～～ｎ

……って馬鹿なこと考えてる間に本当に殺される！死ぬ！真っ直ぐに突っ込んできたからギリギリで避けてるけど流血してるじゃん！
腕も足も転んだりぶつけられたりで傷だらけの状態で、あたふたと逃げ惑うけど羊を巨大化させ凶暴な角とキバを持った生き物が目前に迫る。

終わった。死の痛みに恐怖して思わず恐怖で目を瞑るけど痛くない。身体がふわって落ちた感じがしただけ
そっか夢だもんね。あーすっごいリアルな夢だったー。

負けちゃったしそろそろゲームオーバーで目が覚めるのかなー？

なーんてね、これまた有り得ないですね。

うん、そう、薄々気が付いてた。ちゃんと理解してた。
だって、この世界に来てから読んだあのラノベ。私の夢のはずなのに私にはない文章能力。
私にはない知識（３つも読めない漢字があった！！）

認めたくは無かったけど、私の夢にしては有り得ない非ご都合主義。
小石や小枝を拾ったときの重さも感触も転んだときの痛みも何もかもが、あまりにもリアルすぎる。

――――――ここは、本当に異世界なんだ――――――

異世界に来れたのは嬉しいけど、こんな始まりでこんな終わり方なら来たくなかったよ。
認識したのとほぼ同時に死んじゃったじゃん。指の一本も動かない状態でどうしろってのよ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6049z/

毒され少女の異世界物語

2011年12月21日00時53分発行